

中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成

研究開発の背景

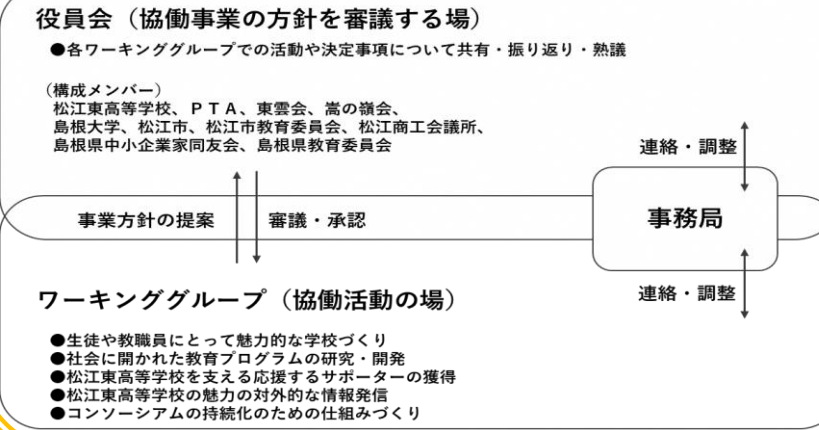
・「県立学校魅力化ビジョン(平成31年2月県教委策定)」により「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校となることを求められている。

・人口減少問題を抱える本県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成が重要な課題となっており、教育に大きな期待を寄せられている。

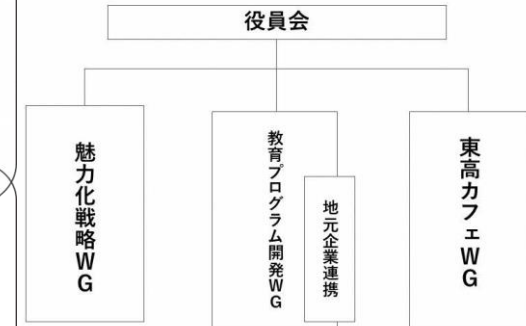
・本校及び地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決等の探究的な学びを行う「社会に開かれた教育課程」の編成が不可欠である。

コンソーシアムの構成等研究開発の実施体制

コンソーシアム概念図



コンソーシアム体制図



令和3年度の目標	取組状況,成果
1 「地域共創人育成Project」 「総合的な探究の時間」の充実	地域企業・団体や松江市と協働し、「地域と協働した学びのサイクル」を確立することができた。生徒たちの生徒たちの、地域とつながる主体性を育むことができた。
2 「主体的・対話的で深い学び」 を実践する授業力向上	先進校視察等は実施できなかったが、コンソーシアムメンバーである島根大学と連携したオンライン授業公開や、先進的な授業研究を行う県外講師の講義等の構内研修を通じて授業力向上を図ることができた。
3 i) 学校設定科目 「EAST地域探究」を開講	個々の生徒が地域課題の解決や地域の魅力探究の活動を行った。多岐にわたる地域の人々や関係機関の協力を生徒が主体的に得ていきながら、自身のライフデザインを実現する力を伸ばすことができた。
ii) 学校設定科目 「EAST国際交流」を開講	昨年度開講した「EAST国際交流基礎」のカリキュラム研究の成果を活かし、海外の文化等多方面から国際理解を深めることができた。
4 「地域共創のタネ」を育てる活動	松江商工会議所等コンソーシアムメンバーとの協働活動を通して、授業外においても主体的に地域貢献のためのプロジェクトをすすめる生徒たちがでてきた。新聞等にもとりあげられ、成果の普及に資することもできた。

今後の課題

・生徒たちの「地域と協働した意志ある学び」を支え、組織的な対応ができる校内組織体制づくり。

・学校の「グランドデザイン」について全教職員の理解をさらに深め、「地域共創」の学びの深化に向けてベクトルをそろえていく取組の推進。

・教科の学習との好循環を生み出すカリキュラム開発についての検討・実践の継続。

・本校だけにとどまらず、幼～大学までつながる「地域共創人育成プロジェクトアドバンス」の推進。